諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベル２（火口周辺規制）が継続＞
御岳（おたけ）火口では、噴火活動が活発化しています。
本日（26 日）04 時 11 分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から１km 近くまで達しました。その後も大きな噴石が 700ｍから 800ｍ近くまで飛散する爆発が発生しています。

【防災上の警戒事項等】
御岳火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○　活動概況（図１～５）

御岳（おたけ）火口では、活発な噴火活動が続いています。
本日（26 日）04 時 11 分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から１km 近くまで達しました。その後も大きな噴石が 700ｍから 800ｍ近くまで飛散する爆発が発生しています。
12 月 21 日から爆発が増加しており、21 日から本日 10 時までに 286 回（速報値）発生しています。
十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、同火口から南南西４kmの集落で、噴火に伴う降灰と爆発音が時々確認されています。
傾斜計やＧＮＳＳ連続観測による地殻変動データに、大きな変化はみられていません。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

図１　諏訪之瀬島　噴火の状況（12 月 26 日、寄木監視カメラ）

本日（26 日）04 時 11 分の爆発では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から１km近くまで達しました（白矢印）。

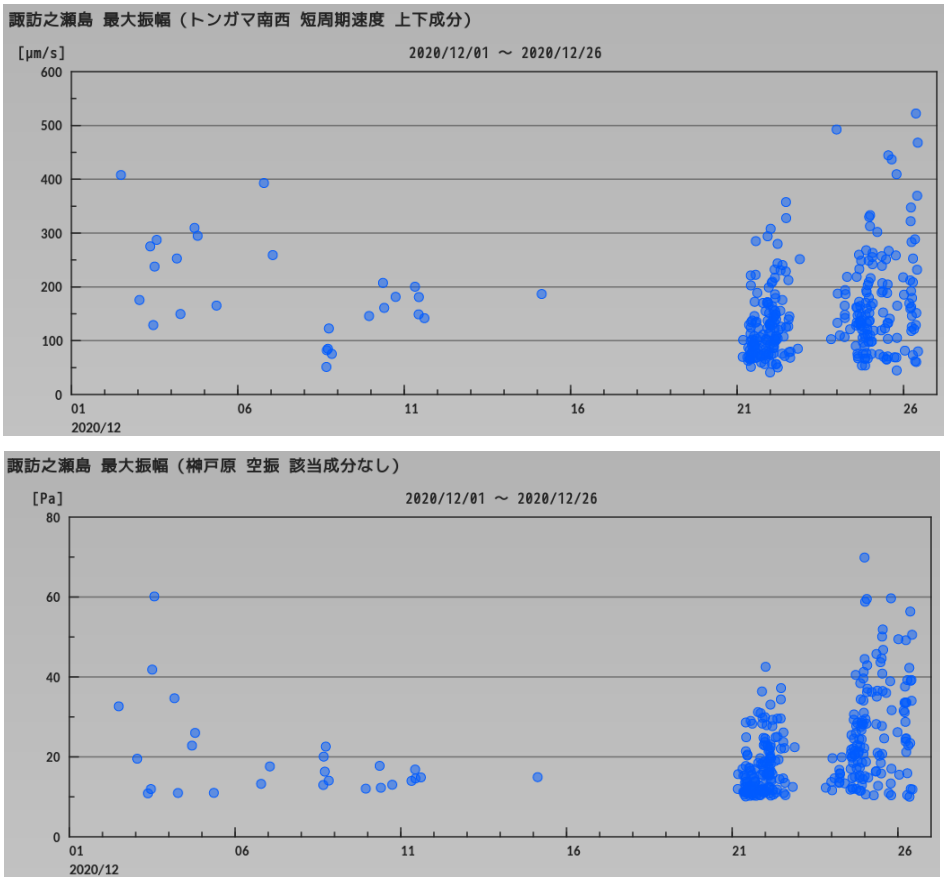

図２　諏訪之瀬島　爆発地震の振幅（上図：トンガマ南西観測点UD）、空振の振幅（下図：榊戸原観測点）（2020 年 12 月１日～2020 年 12 月 26 日 10 時）

12 月 21 日から爆発が増加しています。本日 04 時 11 分の爆発では、トンガマ南西最大振幅 169.4μm/s、榊戸原空振計では 31.6Paを観測しました。21 日からの空振の振幅の最大は 69.9 Paでした。

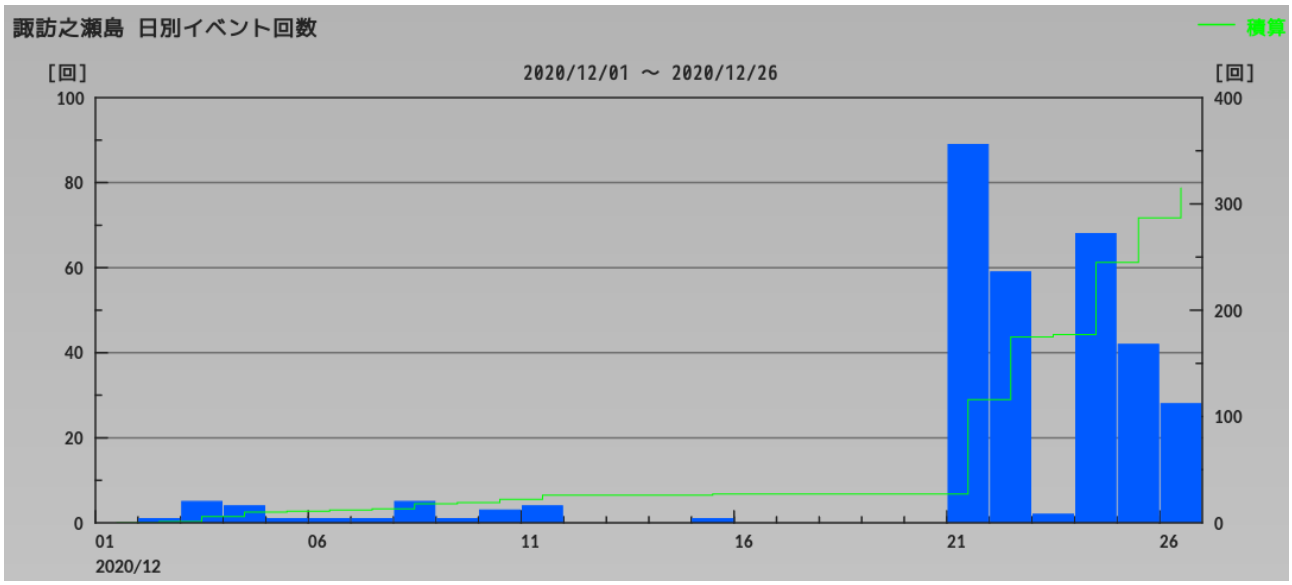

図３　諏訪之瀬島　爆発の日別回数　（2020 年 12 月１日～2020 年 12 月 26 日 10 時）

12 月 21 日から爆発が増加しており、21 日から本日 10 時までに 286 回（速報値）発生しています。

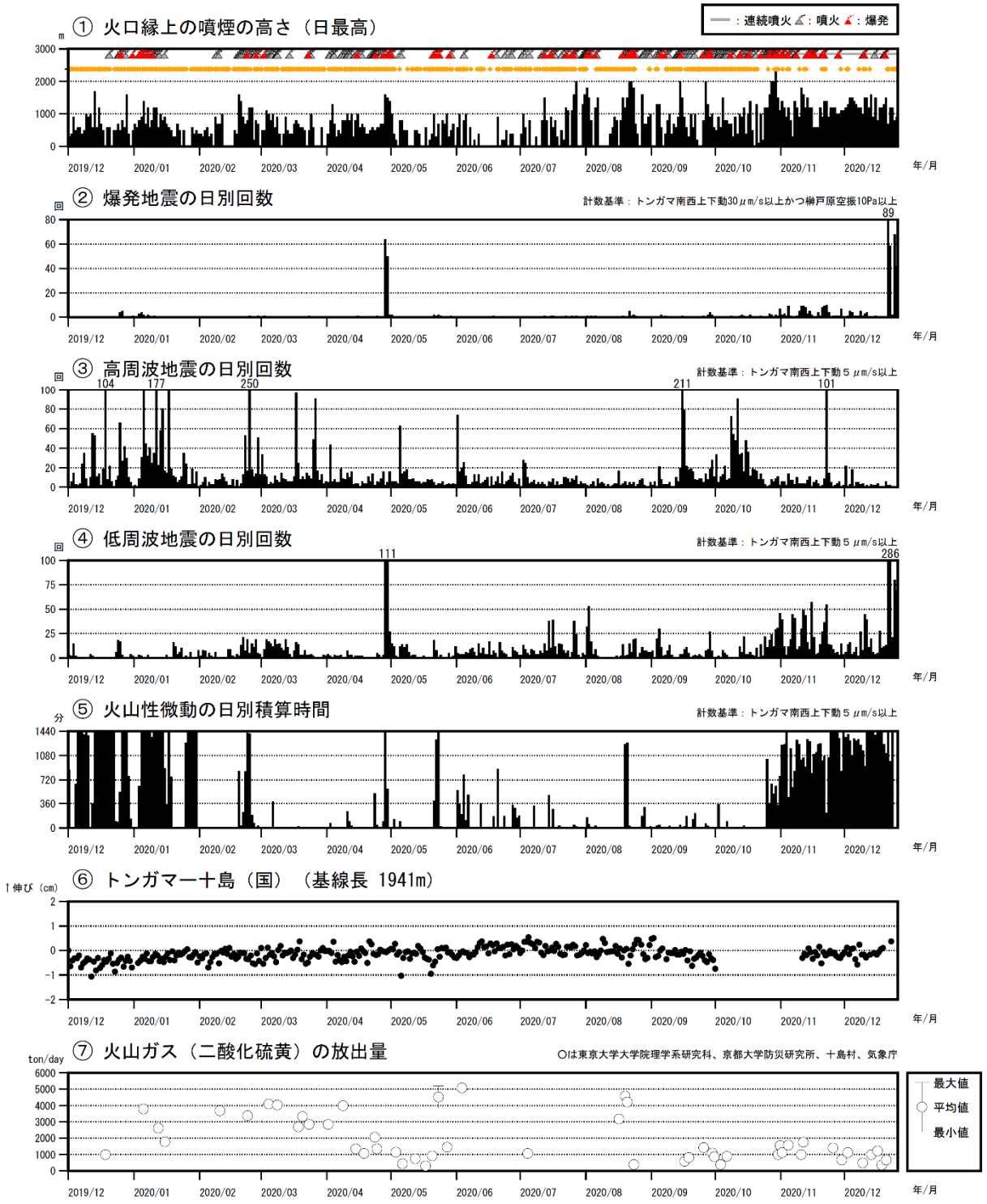

図４　諏訪之瀬島　最近の火山活動経過図（2019 年 12 月～2020 年 12 月 25 日）

・12 月 21 日から爆発が増加しています。
・火山性微動は主に噴火に伴って発生しています。
・GNSS 連続観測では、島内の基線で 2019 年 12 月頃から、わずかな伸びがみられていましたが、2020 年９月頃から停滞しています。
・12 月以降、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり 400～1,200 トンとやや多い状態で経過しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は 2019 年 12 月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。
トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。
⑥の基線は図５の①に対応しています。

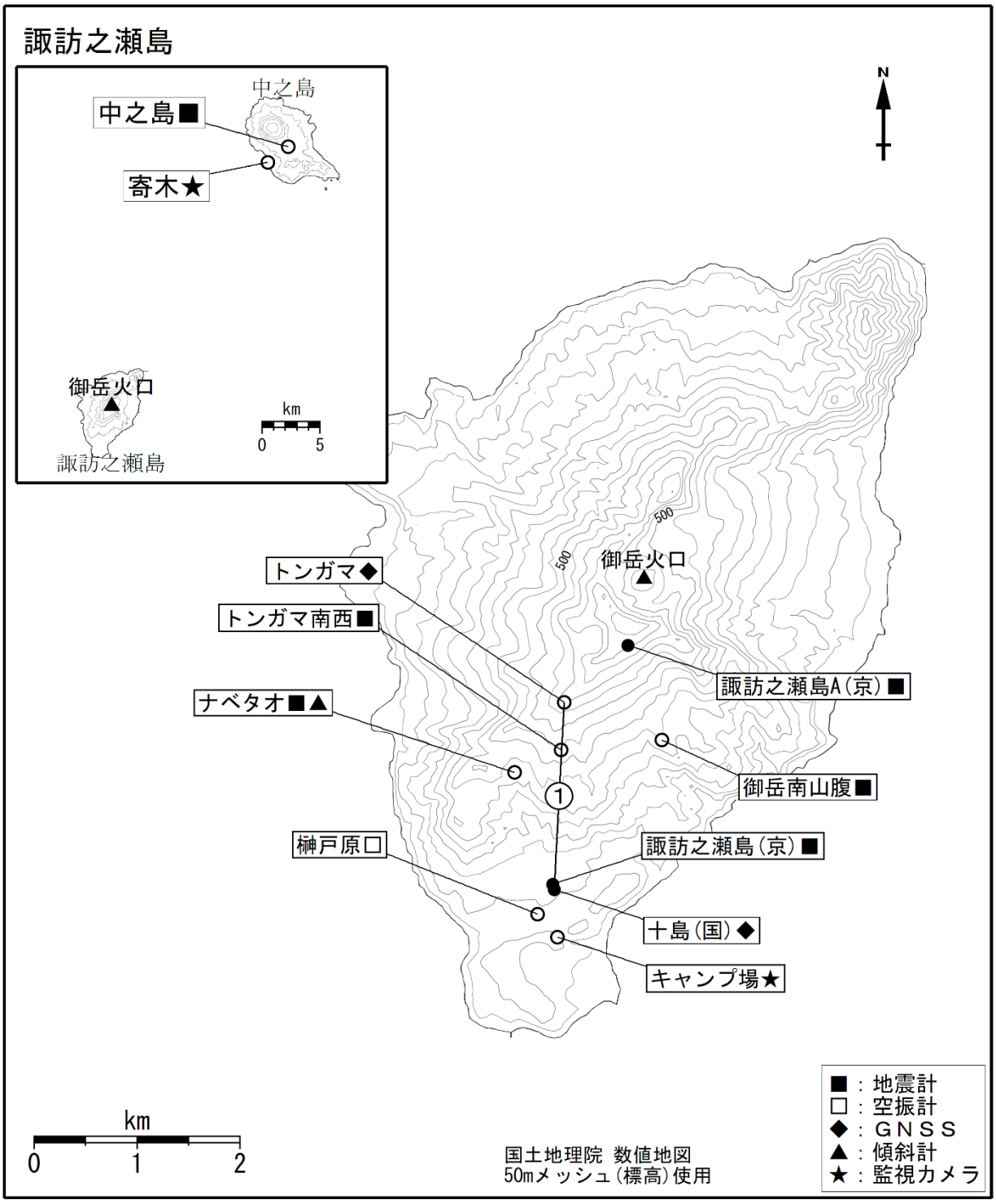

図５　諏訪之瀬島　観測点配置図と GNSS 連続観測による基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（京）：京都大学